

第11号

群大病院 地域連携だより

病院の理念

患者さん中心の医療を推進する

基本方針

- 一、 先進医療の開発と実践
- 一、 次代を担う医療人の育成
- 一、 地域医療への貢献

地域医療連携施設交流会を開催しました

さる 7 月 1 日、前橋商工会議所ローズの間において群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会が行われました。これは当院と連携施設との間の相互理解、意見交換などを目的としたもので、今回が初めての開催となりました。

交流会では石川病院長の挨拶に続き、新木恵一群馬県健康福祉部長、鶴谷嘉武群馬県医師会会長、川越文雄群馬県歯科医師会会長、柴山勝太郎群馬県病院協会会長から来賓挨拶をいただきました。来賓の先生がた

からは、医療機関の機能分担・連携は医療にとって不可欠であり、群馬県で唯一の特定機能病院である群馬大学病院が門戸を開き、積極的に連携を行う体制をつくったことは喜ばしいことで、群馬の医療体制の充実に大いに期待しているとのこと挨拶をいただきました。

続いて野島副病院長から「群馬大学医学部附属病院の現状と課題」について、田村患者支援センター長から「病診連携の現状と課題」について情報提供をし、ご出席いただいた先生がたに交流会開催および連携施設登録の趣旨について説明しました。その後意見交換を行い、引き続き交流会 II 部においても地域医療に関わる活発な議論・意見交換がなされ、たいへん有意義な会になりました。



今年度当院から地域医療連携の提案を行ったところ、群馬県医師会をはじめ各郡市医師会のご協力のおかげで 9 月現在 600 を超える群馬県内の医療機関から賛同を得ることが出来ました。当院の医療連携体制はまだ未整備ではありますが、ご賛同いただいた地域医療機関のご協力のもと、群馬県地域医療の発展に貢献していきたいと思っております。



副センター長挨拶



群馬大学医学部附属病院 患者支援センター

副センター長 佐藤 真人

今年 4 月より患者支援センター副センター長を拝命いたしました。簡単にこれまでの経歴を申し上げますと、平成 8 年新潟大学医学部を卒業後、本学第二内科（現・臓器病態内科学）に入りました。倉林正彦教授のご指導のもと大学院を修了後、総合診療医を志して田村遵一教授率いる総合診療部に移り現在に至ります。余談ですが前任の小和瀬桂子先生は、私が第二内科に入ったときの一年先輩で、医師として最初に手ほどきを受けた先生です。その後任を務めることに不思議な縁を感じている次第です。

患者支援センターの役割はご存知の通り、相談機能と連携機能から成っています。相談機能については、当センター看護師と看護部、保健学科で協力して行っているがん相談が特に他大学からも高く評価されるなど、すでに一定の成果を上げています。今後もこれを継続していけるよう支援センターの各職種間の関係を高めていきたいと思えます。

一方、地域医療連携の推進が求められる昨今、連携機能の強化がとても重要であると感じています。地域医療連携施設との交流会の開催など、群馬県地域の医療連携には重要な役割を果たさなければなりません。また脳卒中パス、現在準備が進んでいるがん地域連携パスといった地域医療連携パスの整備・運用への参画には、高度な専門性が必要です。さらに今後、国際医療連携ネットワークへの参加なども予定しており、ますます多種多様な役割が求められ、これらのニーズに対応していく必要があります。

設立後 2 年目を迎えたばかりとまだ歴史が浅く、マンパワーも不足しがちな現状ですが、専門的な病院間連携を担う一方、相談業務を通して患者さんには親しまれる患者支援センターをスタッフ共々作り上げていきたいと思えます。

